

持続可能性の高い島へ挑戦する脱炭素化構想

～エネルギーの自立で「ないものはない」を実現～

代表提案者

株式会社海士パワー

協同提案者

海士町

人口減少や少子高齢化が進む中、離島の課題でもあるエネルギーの自立化が重要となってきた。本構想では、限りある人や資源を活用して、脱炭素化を実現する生産や移動のしくみをつくるとともに、災害に強い経済・社会基盤の根幹となるエネルギーの自立化に向けて挑戦していくことを課題と捉え、本構想を策定した。

リーディングプロジェクト 3

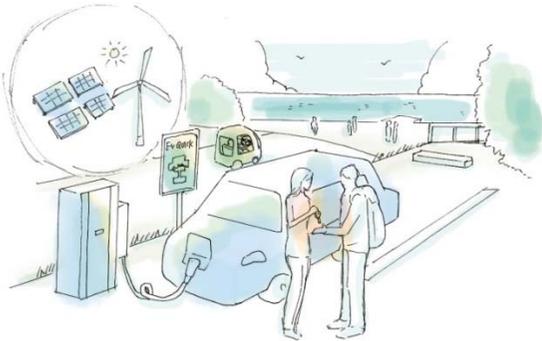
海士クリーンエネルギー・ライフトーププロジェクト

- 3-1 防災拠点施設への再エネ設備の導入
- 3-2 水素エネルギー利用システムの導入

リーディングプロジェクト 1

海士の交通プロジェクト

- 1-1 電動モビリティの推進
- 1-2 モビリティシェアリングの推進



- 車輻の電化、充電設備の設置、シェアリング
- 島の玄関口菱浦港での取り組みのアピール

リーディングプロジェクト 2

海士の木材使い切りプロジェクト

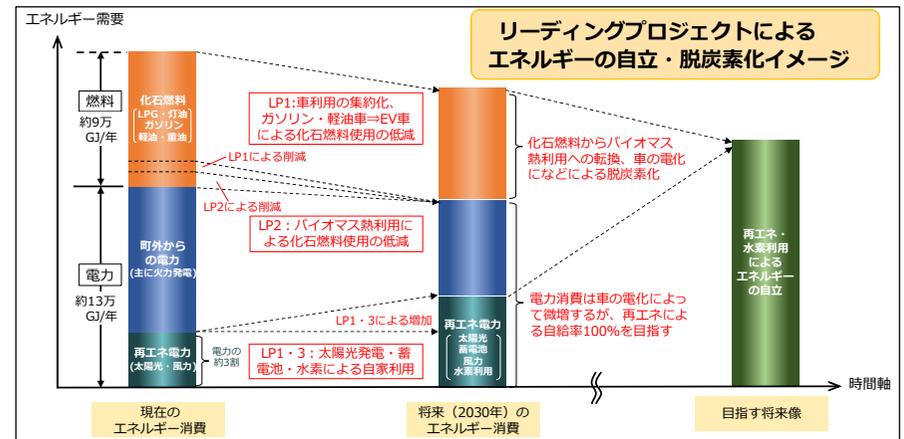
- 2-1 伐採木の熱利用
- 2-2 剪定枝・草本・竹の完熟堆肥化とフル活用



■ 温泉源泉地での新燃料によるバイオマス熱利用



■ 集落の防災拠点への太陽光発電及び蓄電池、水素エネルギー供給システムの導入

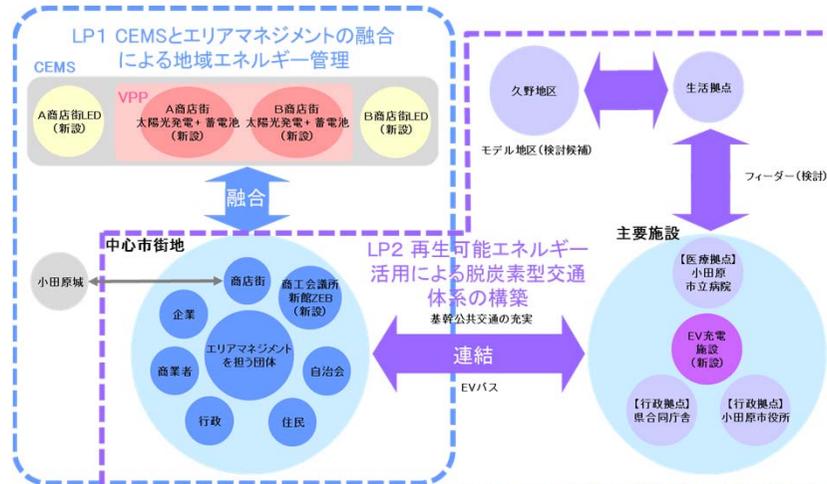


小田原駅を中心としたエネルギーとまちづくりのマネジメントの融合構想

～地産地消のエネルギーを活用し、地域で人と資金が循環する仕組みを作って「明かりが落ちない商店街」を実現～

代表提案者	一般社団法人 エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議
協同提案者	小田原箱根商工会議所(予定)

- 地域エネルギー関連事業者と連携し、商店街というコミュニティでエネルギーマネジメントを行う。
- 地域エネルギー関連事業者の売り上げの一部を商店街のエリアマネジメントの運営資金として支援することで、地域に資金が循環する仕組みを構築する。
- 中心市街地と主要施設間の移動のグリーン化(EVバス)により脱炭素社会へ貢献する。



【構想の全体像】

第5次小田原市総合計画・後期基本計画(2017.3策定)

- ① 中心市街地のにぎわいづくり、まちづくりと連動した商業振興
- ② まち歩き観光の推進
- ③ エネルギーの地域自給に向けた取組の推進
- ④ 魅力ある地域資源の活用と産業の連携
- ⑤ 小田原駅・小田原城周辺のまちづくり
- ⑥ 誰もが移動しやすい交通環境づくり

上位・関連計画

- ・ 小田原市立地適正化計画 ～都市機能誘導区域編～(2017.3策定)
- ・ 小田原市エネルギー計画(2015.10策定)
- ・ 小田原市公共交通総合連携計画(2013.3策定)

公民連携の取組み

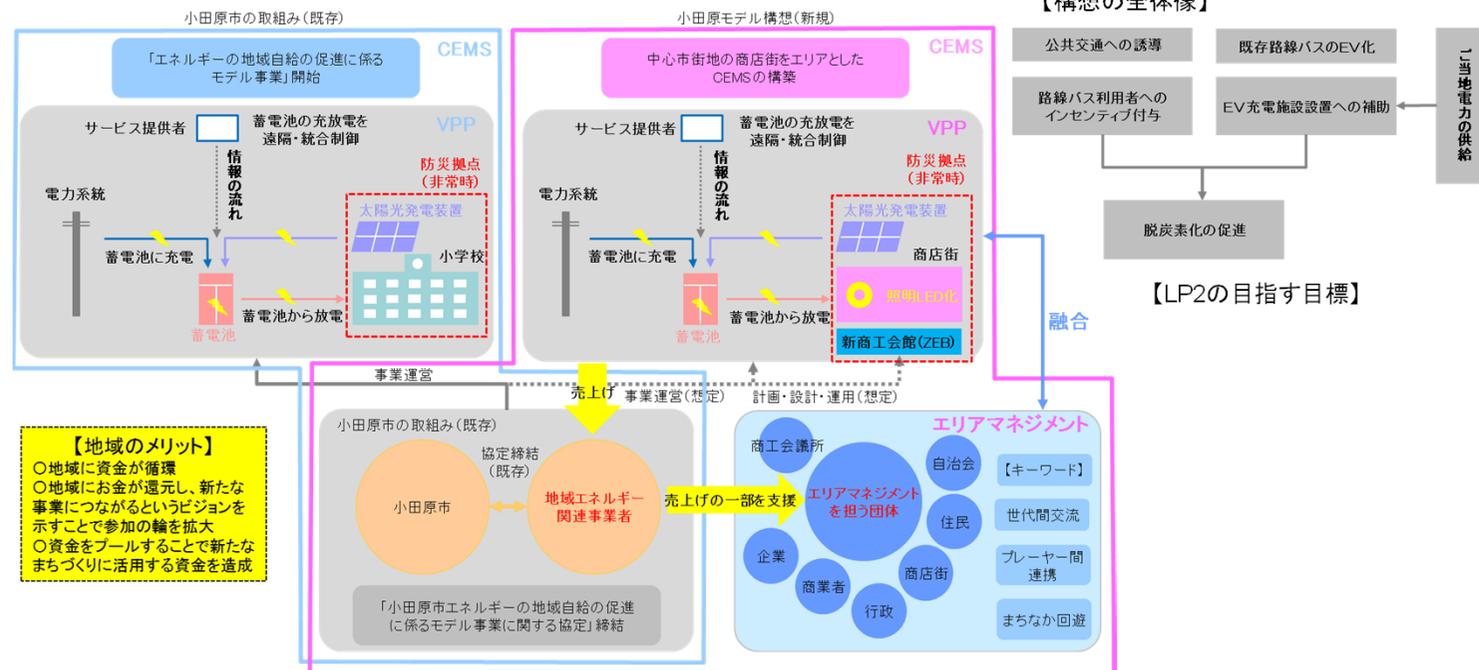
- ・ 小田原市の再生可能エネルギー等を活用したエネルギーマネジメントの取組み(2017.7協定締結)
- ・ 合同会社まち元気小田原(まちづくり会社)(2011.4組織化)

地域の課題

- ① 公共交通利用者の減少
- ② 中心市街地の空洞化
- ③ エネルギーの地域自給力の不足

LP1 CEMSとエリアマネジメントの融合による地域エネルギー管理

LP2 再生可能エネルギー活用による脱炭素型交通体系の構築



【LP1のイメージ】

【地域のメリット】
 ○地域に資金が循環
 ○地域にお金が還元し、新たな事業につながるというビジョンを示すことで参加の輪を拡大
 ○資金をプールすることで新たなまちづくりに活用する資金を造成